

明石高専 同窓会通信 第2号

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3
明石工業高等専門学校・同窓会

目 次

副会長挨拶	稲田 正三	1
学校長挨拶	近藤 昌彦	2
〔母校の近況など〕		2
なつかしの恩師より	坂田 精三、廣田 泰久	3
第4回総会報告	志智 保久	4
同窓会活動について	友久 誠司	5
子午線会	宇賀治 晴夫	6
〔事務局からのお知らせ〕		6

副会長挨拶

電気工学科1回生 稲田 正三

謹啓、同窓会会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

同窓会通信第2号の発行に関し、役員一同を代表してご挨拶並びに同窓会活動に対する日頃のご支援、ご協力のお礼を申し上げます。

さて、卒業30年、50歳は人生の折り返し点であり、公私共々、色々な経験を積み、会社では後進の指導に当たる立場にあり、家庭では子供の教育等で悩む年代であります。

この30年を振り返ってみますと、卒業当時は、昨今の情報化時代とは異なり、電子メール、携帯電話等もなく、もちろんパソコンは夢の世界だと記憶しています。

しかし、パソコンも各家庭に1台の時代を迎えつつあり、仕事では電子メールと携帯電話の利便性のため、もはや手放せない状況になっており、隔世の感であると思わざるを得ません。

だが、情報化時代であってもこれらは情報伝達の道具であり、会員間の交流の基本はフェイス ツー フェイスであると考え、第4回総会を去る11月30日に開催を致しました所、多数の会員の参加を得てかくも盛大に終了し、役員を代表して関係各位に厚くお礼を申し上げます。このように世代並びに専門が違ふ技術者集

団が一同に会しますと、明石高専卒業生としての日頃よりの切磋琢磨の成果が大きな力となり、明日への跳躍の場でもあると感じ、同窓会の役割の重要性が犇々と身に迫る思いです。

昨今の動きは、既存の技術に満足することなく、常に新たな技術取得を心掛けないと、取り残される時代となりましたが、技術者としての心構え、基本的な考えは変わっていないと思います。温故知新のことわざに示されるように、この30年間を経て変わっていない事を大切にする心、また新たな技術に対応するために変えなければならない事項を判断する知恵が必要と思えてなりません。老婆の知恵に表されるように経験は非常に大切な部分であり、今まで得た貴重な経験を後進に伝える役目、これが先輩として同窓会を有意義な場にする責任を負っていると考えています。

最後に近藤校長を始め、諸先生方、会員各位の益々のご発展を願って、同窓会役員の挨拶とさせていただきます。

敬具

学校長挨拶

学校長 近藤 昌彦

大谷巖前校長の後任で、この4月に就任いたしました。それまでは昭和41年に文部省に入省以来、教育行政に携わってまいりました。教育の実際の場面は初めてですので校長として適切に勤めることができるか、不安な面も多々あるのですが、皆様の築いて来られた実績を大切に守りながら、なお時代の進展に伍して、重責を果たしたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願い致します。

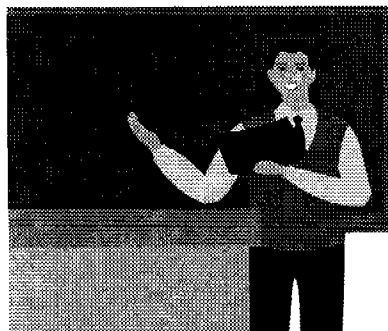
学校の評価はその卒業生の品位と社会的信頼によって定まると言われます。まさに本校の場合、これに当てはまります。本校の現在の発展は同窓の皆様の発展の賜物であり、現在の在校生も、皆様方同様に、将来の本校が誇るべき卒業生になってくれるものと確信しております。

校長就任以来、早くも9か月も過ぎてしまいました。喜びや戸惑いも味わいながら、本校発展の方向を考えています。状況は少し複雑で、今後、高専もまた、最近の企業の厳しい状況と同様に、競争と選別の度合いが進むと思います。今まではどこの高専も似たような横並びの方針の下に教育を行ってきましたが、これからは学校によって相当異なる進み方になるでしょう。その中で、明石高専は名門と称されており、つ

い現状でよいのではないかと考えがちなのですが、名門であればこそ、卒業生の皆様の活躍を背景に学校もまた進取の精神を持って時代によりふさわしい学校を育成して参らねばならないと思っております。

この12月には先の本通信で専攻科長の中山先生が紹介しました専攻科の専用棟も完成しております。これをどのように育てていくかが今後の高専の方向に大きな影響を持つと考えております。

職場等各界で中心的な存在としてご活躍の皆様におかれましては、いつまでも母校に注目をいただきますとともに、母校もまた同窓の皆様に恥じない発展を遂げていきたいと思っております。

母校の近況など

(1) 学校長

平成9年 大谷 巖 校長が退任し、近藤 昌彦 校長が着任した。

(2) 退官教官

平成9年 山本 勝巳(一般)、福間 更生(電気)、松井 克俊(建築)
迫水 和裕(建築)

(3) 新任教官

平成9年 藤澤 博康(一般)、松宮 篤(一般)、濱田 幸弘(電気)、
廣田 敦志(電気)、石丸 和宏(都市システム)、
田坂 誠一(建築)、武藤 尊彦(建築)

(4) 施設

平成9年 専攻科棟が竣工した。

(5) その他

明石高専のホームページ <http://www.akashi.ac.jp/>

なつかしの恩師より

臨床工学技士を目指す若者との日々

坂田 精三

定年後、神戸にある総合医療系の専門学校に努めている。正門前の道路を隔てた向いに小学生殺害事件で有名になった中学校がある。事件後にテレビでたびたび放映されたあの正門が、私のいる4階の臨床工学科からよく見える。この学科で医用電子工学の講義と電気・電子・情報工学の実習を担当している。医用機器のハイテク化が進んできたため、これから医療現場で働こうとする人達も電子工学とコンピュータの基礎知識が不可欠になってきたからだ。

臨床工学科への入学者は殆どが高卒であるが、大学や短大卒も時々いる。社会人経験者もごく少数ながら混っているし、10名位は女性も入学する。しかし、学生の中には高校で物理を履修していなかったり、理数教科を苦手とする者が多いのには驚く。実に、様々な学生がクラスにいる。したがって、高専の電気工学科とは大分違った雰囲気は教室に漂っている。

彼等に電気と電子工学の一般知識を3年間で教え込み、卒業後に受ける国家試験に合格させなければならないので、教える側も苦労する。基本的事項については理解させる必要があるもので、なるべく数式を使わないで易しく説明したり、実習項目に取り入れて実験上からも納得させるなど授業についても工夫するのだが、意外に難しく、手間がかかるため頭を悩ませている。しかし、クラスによっては面白い連中もいるので、若い彼等を相手に教えていると結構楽しく、自然に気持も若返ってくる。

彼等の大多数が何とかついてくるのは、恐らく国家試験に合格して臨床工学技士となり、良い病院に就職したいからだだろう。目標は努力を続けるための励みになる。改めて、目的とか生きがいをもつことの大切さを痛感した。

勤務先が変わると、新しい職場に関係した様々な人に出会う。良い悪いは別にして、この人達から今までに経験しなかった新しいことを学んだ。人間は死ぬまで勉強だと言われるが、その通りだと思う。どんな環境にいても、プラス思考で前向きに生きることが大切であるし、またそのことが人生を楽しくする。

若い人と身近に接する機会が多いので、自分では若い気持でいるのだが、額の広さがだんだんと大きくなってきた昨今の私でもある。

同窓会に期待

廣田 泰久

明石高専が30年にわたり数多くの逸材を輩出していることについては、本校に関係したものにとっては大変誇りに思います。すでに第1号同窓会誌が刊行され、同窓会のさらなる強いきずなが出来るものと喜びに絶えません。世情は私の関係する建設の世界をはじめとして、バブル崩壊後の景気回復の足取りは鈍く、苦難の時代を迎えています。また、科学技術の異常ともいえる進歩は、我々に眩いばかりの明るさの反面底知れない不安を与えています。我々はこれを克服しなければ輝く現代はあだ花となってしまうでしょう。

この間新聞に閉塞した社会に対応する方法として蟻を例にした話がでていましたが、北海道の石狩湾岸等に生息するエゾアカヤマアリは特殊な社会構造を持っていて、殆どの蟻が1匹の女王を頂く閉じた社会を築き、他の蟻とは交わらないが、エゾアカヤマアリは1つの巣に何匹もの女王がいる上、環境が厳しくなると幾つもの巣が連携して、さらに大きな共同体をつくる。4万5千もの巣が集まった共同体もあるという。そこでは働き蟻の食物蟻は、食物の情報を他の集団蟻にも伝え、一緒に巣に運んだりする。巣から巣へ移住することもあるという。そして、蟻を取りまく厳しい環境にも耐え、環境変化にも高い順応性を示すという。このアリの習性こそ同窓会の役割とピッタリだと感じた。同窓会は同窓とはいえ多種多様な立場で、そして時代にもまたがった会員で構成されている。このようなときこそ同窓のものが手を取り合ってゆく意義は大きく、同窓会の益々の発展を願ってやみません。

私は明石高専を退官して5年既に老境入りしています。建設関係の世界に里帰りして若い人たちと一緒に仕事をしたり、本校にも週一日非常勤で来校しています。まずは一応元気に過ごしていますが、スズメ百まで踊り忘れずの類で、くたびれたな、もうそろそろ、いやいやまだやれる！の沈んでみたりほくそ笑んでみたりの繰り返しこの頃です。同窓会の皆様には激動の時代も、物ともせず手を携えて健闘してもらいたいとお祈りしている次第です。

第4回 同窓会総会を終えて

実行委員長 電気工学科5回生 志智 保久

去る11月30日(日)、三宮ポートアイランドにあるホテルパールシティ神戸にて、第4回同窓会総会を開催することができました。総会の開催は、5年毎の恒例のものであり、参加者は現旧教職員ご列席のもとに101名でありました。出席いただいた皆様、開催に当たりご多忙の中準備いただいた実行委員の皆様へ深く感謝いたします。

ここに、その時の模様を手短にご報告いたします。まず、総会は午後2時より田中委員(7A)の司会で進められ、実行委員長、宮脇同窓会々長の挨拶のあと、近藤校長先生より、同窓会は明石高専の発展のため尽力いただいていると感謝のお言葉をいただきました。

議事は、吉永さん(2C)が議長に選出され、宇多副会長(1A)より事業報告と決算報告が行われ、監査報告(小嶋理事(2A))の後、満場一致で承認されました。

役員の改選では、次期会長候補の岩佐さん(3E)が紹介されました。また、八木幹事(8A)による母校の近況紹介では、女子学生の増加や専攻科などの変遷の様子をはじめ、平成8年に惜しくも全国準優勝となったロボットコンテストの報告などがありました。

続いて、午後3時より講演会が行われ、講師は神戸が生んだ棋士九段 内藤國雄氏、演題は、



内藤 國雄氏の講演

「人生と勝負」でありました。羽生王将の結婚式で三橋美智也の「古城」を歌うのに緊張した話や、谷川兄弟や升田幸三九段のエピソードが楽しく紹介されました。そういった話の中で、谷川竜王、羽生王将と並ぶ力のある棋士は20人程いるが、その中で、この二人が光るのは運の強さだという言葉が深く印象に残っています。

午後4時より懇親会が若松委員(10M)他の進行で開かれた。藤原幹事(1M)の挨拶のあと、向山教務主事の音頭で乾杯し、会食歓談に入りました。現旧教職員の紹介や近況報告では、懐かしい話や目新しい話が飛びかい、卒業学科や回数を超えた輪が広がり、大変和やかな雰囲気では進行しました。また、内藤九段から提供された色紙、扇子等の抽選会もあり、5名の方が幸運を射止められました。

2時間を越える懇親会も盛況の内に進み、中川委員(14E)指揮のもと、出席者全員で学生歌を斉唱し、日野実行副委員長(2A)の閉会の辞でお開きとなりました。

20数年ぶりに会った友人も最初は誰かわからなかったけど、話すうちに青春に戻り、楽しい一時を過ごせました。そして、各々が次回の再会を期して三々五々会場を後にしました。



特別会員の歓談風景

同窓会活動について

—— 在校の一幹事から ——

土木工学科4回生 友久 誠司

1. 事業基金について

前回の会報にて、本会活性化のための同窓会事業基金の提案がなされた。その主旨は、「初期の同窓会会員が社会人として円熟期を迎えた今、寄付金を集めて、新たな会員サービスや母校の援助等の事業を起こそう」というものであった。その提案に対して、多くの会員からご意見をいただき、役員会でも検討を行った。その主なものは、

- (1) 同窓会活動の将来の展望は大変重要である
- (2) まず、現在実施している活動の充実を図る
- (3) 今後、目標とする行事の種類と規模を明確にする
- (4) 現在の組織構成では弱体で、会員や役員の協力は得られない
- (5) 事業への寄付金が集まるか疑問であるなどであり、結論にいたっていない。よって、今後も役員会で継続して検討することになった。

2. 高専の立場

現在、全国の高専は、工業・商船・航空・芸術の各分野の国公私立を含めて62校である。

1学年の学生数は約1万人であり、同年の人口比で約1.0%のマイナーな立場は、この約35年間変わっていない。また、近年の大学への編入学生の増加（本校の電気工学科は半数以上、その他の学科も約4割）は、高専にとって両刃の剣である。すなわち、優秀な中学生の高専への志望が増える要因であるとともに、高専卒で社会に出る人数はさらに減少する。一方、制度面でみると、周辺大学は入学定員の増加や、大学院・博士課程や各種の研究所の新設など、大きく変貌してきているのに比べ、高専は分野の拡大（生物工学科やインダストリアルデザイン学科）、準学士の称号授与など変化はわずかであり、近年設置された専攻科の評価も今後に委ねられている。

平成7年度の出生数は約119万人である。第1次ベビーブーム（昭和24年）の約270万人、第2次ベビーブーム（昭和48年）の約209万人に比べて大幅に減少している。一方、平成8年の全国の大学や短大への進学率は46.2%に増加している。このような少子化・高学歴化時代を迎え、多くの高等教育機関では、学生の定員を確保することも困難な時代を迎えつつある。

そして、有名教授の招聘、特色をもった入試制度や単位修得システムの導入を図り、将来への生き残りをかけて改革を進めている。

全国の高専も大学と同様の立場にあり、淘汰される時代が来ようとしている。明石高専は教育・学術研究面を活性化するとともに、技術交流で地域企業との共生化を図ることで独自性を発揮しようとしており、本年7月に地域共同教育研究センターを発足させている。同窓会会員との情報交換をはじめ、共同研究などの技術協力が明石高専の大きな助力の一つになるとともに、ひいては会員諸氏のステータス向上につながるものと考えられる。

3. 同窓会について

旧帝大をはじめ有名私立大学が、学会、種々の行事やスポーツの応援などに大きな協力体制を組織できることは、うらやましい限りである。また、一般的に社会にしっかり根を下ろした学校は、同窓会組織も良好であると感じている。

本校は、毎年の卒業生がわずかに160名であり、開校以来の会員も約4,200名にすぎない。これは大きな学校の単年度卒業生数にも満たない規模である。最近、会員のなかには、同窓会から脱会したいといわれる方も出ている。何らかの事情や個人的な考え方から、種々のご意見の方がいらっしやうて当然である。しかし、同窓会の運営に携わっているものの一人として残念な思いがしている。

会員のそれぞれが、同窓会に何を代償（利益）として求めるかは、難しい問題である。経済・時間的負担が伴う割には目にみえた功用はないかもしれない。また、同窓会運営への協力は、企業・家庭人としての会員にとって大きな負担でもある。

同窓会は社会の喧騒から離れた心の故郷と、私は思っている。そして、各自の最も輝かしい青春を生涯の友と過ごし、社会に踏み出すエネルギーを与えてくれた母校の末永い発展を祈る活動であると。卒業後のいつか、できるときに相応の貢献をしていただくという軽い気持ちで、同窓会にご協力いただければ幸いである。

子午線会

電気工学科6回生 宇賀治 晴夫

電気工学科同窓会は、明石の象徴である東経135度の子午線の名を冠して子午線会と称しています。毎年電気工学科の卒業生が増加するに伴い、卒業生の消息が徐々につかめなくなりつつある状況にまず名簿をしっかりとしたものにしてはどうかという故奥田教授の呼びかけに対して、一期生の松本氏達が応え昭和55年（1980年）その名簿作成のための幹事会がもたれました。そしてその4年後（昭和59年）には名称を子午線会とし、会則も定め正式に発足しました。松本氏はその後平成6年（1994年）まで、子午線会発足以前の電気工学科同窓会時代を含め二十数年の長きにわたって会長職を務められました。その後、回次順送りの輪番制が確立し、現在は5、6回生の3代目の会長、副会長となっています。

最近の子午線会の活動で特筆すべきものは、平成6年3月神戸市の舞子ビラで行なわれた坂田教授の退官記念祝賀会がまずあげられます。約170名の卒業生、現旧教官、職員の方々に出席頂き、過去子午線会が主催した行事では最大規模の事業となりました。これは単に子午線

会の組織が充実してきたことによるのではなく現顧問の竜子教授の多大なる御尽力によるものでもあり、今後も幹事会と教室とが密接に連絡をとり合って更に母校と子午線会が発展していく事を願っております。

年中行事として、毎年正月に新年会がもたれています。節目の年は別として母校の一隅でささやかな会ですが旧交を温めた現職の先生からホットなニュース、例えばロボコンでどのように活躍したか或は卒業予定者の進路などを聞いたり、退官された先生方からはその後の御活躍の様子を披露して頂いております。又各卒業生からのスピーチも興味深く、産業界の生々しい動向やときには企業秘密に抵触しそうなきわどい話もあって和気あいあいの会をもっています。しかしこの新年会を楽しみにしている卒業生もいれば、地理的又正月という制約で年々会員が増加しているにも拘わらず、毎年適正規模に収まっており、溢れかえるほどになっていないのが現状です。私は関東地方にも何らかの形で組織が作られ益々この輪を大きくできればと願っております。

事務局からのお知らせ

- (1) 会費の納入について 今回、会費の請求書をお届けしております。会員名簿に綴じ込んでいる振込用紙を利用して、会費を納入して下さい。
- (2) 住所変更等の連絡について 会報は毎年発行していますが、宛先不明者が増えています。現住所や勤務先の変更は、会員名簿に綴じ込んでいるハガキかFAXで、下記の事務局までご連絡下さい。なお、会員名簿の住所欄の空白の方をご存知であれば、事務局までお願いいたします。
- (3) 役員の改選について 同窓会組織は、平成10年4月から新役員でスタートします。理事は各回の互選により選出することになっています。再任は妨げませんが、勤務先の都合などで理事が交代されるクラスは、新理事を事務局まで連絡して下さい。
- (4) 同窓生名簿について 次号の同窓生名簿からは、新しくFAX、Eメールアドレスを記載する予定にしています。ご協力を同窓生各位にお願い致します。

同窓会事務局の電話、FAXを設置しました。平成2年の住所原簿と会費の納入簿をパソコンに管理・移管したのに続く改革であり、不急の連絡はこの窓口でお願いいたします。なお、留守番電話とFAXの処理は、1週間毎に行いますので、緊急の連絡は、在校の幹事までお願いいたします。

同窓会事務局

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3

TEL・FAX 078-946-6186